

持続可能な開発目標ビジネス創出支援事業 に係る企画提案公募要領

大阪府では、持続可能な開発目標ビジネスの創出・成長、市場拡大をめざすことを目的に「持続可能な開発目標ビジネス創出支援事業」を実施します。

この事業については、民間事業者等の知識やノウハウ等を活用し、より効果的・効率的に実施するため、企画提案公募により受託事業者を募集します。

本公募は「令和2年2月定例府議会大阪府一般会計予算」が議決され、本事業に係る予算が成立した場合にのみ事業化される停止条件付きの公募です。本事業に係る予算が成立しない場合には、提案を公募したに留まり、いかなる効力も発生しません。

1 事業名

持続可能な開発目標ビジネス創出支援事業

(1) 事業の趣旨・目的

「持続可能な開発目標（以下、「SDGs」という。）」は、2015年に国連が採択した、国際社会全体で解決に取り組むべき社会課題であり、2030年までに達成すべき17の目標が設定されています。

国連持続可能な開発委員会によると、SDGsにおける世界の市場規模は年間12兆ドルと試算されており、あらゆる分野の民間企業にとってビジネスチャンスとなりえるものです。

また、大阪・関西万博の開催目的は、「SDGsが達成された社会の実現」であり、そのためには、あらゆるステークホルダーの取り組みが必要とされています。ステークホルダーの中でも「企業」の果たす役割は大きく、昨年9月24日に国連本部で開催された「SDGsサミット」における安倍総理のスピーチでもSDGs達成の第一の鍵は「民間企業」と言及されています。

また、2019年12月に改定された国の『SDGs実施指針』において、企業が経営戦略の中にSDGsを据え、個々の事業戦略に落とし込んで持続的な企業の成長を図ることが重要とされています。

そこで、大阪府では、本業でSDGsの達成をめざす企業のビジネスを「SDGsビジネス」と位置付け、府内企業がいち早くSDGsビジネスチャンスを獲得できるよう、国や他の自治体に先駆けSDGsビジネス創出支援事業を展開しているところです。

具体的には、SDGsビジネスに挑戦する企業と、それら企業が事業化等にあたり、自社でまかなえない技術や資金等を持つ企業、金融機関、投資家、大学などの支援者・協業者等（以下、「サポーター」という。）とマッチングする場を提供し、関係機関と連携して継続的な伴走支援を実施することにより、府内におけるSDGsビジネスの創出・成長と市場拡大を後押し、同時にビジネスを通じてSDGsの達成に貢献していきます。

なお、本業務は、国際社会全体で取り組むべき課題をビジネスの視点から解決していく「SDGsビジネス」の事業化を支援することを目的としており、事業を実施するにあたり、

- ・大阪でのSDGsビジネスの現状を把握していること
 - ・当該分野における高度な知識・技術、ノウハウ、創造性、人的資源を有していること
 - ・当該分野における企業マッチングやアライアンスの促進のノウハウを有していること
 - ・関係機関（経済団体、ファンド、産業支援機関、大学等）とも連携し、事業効果を最大限に得られるよう企画・運営する能力を有していること
- 等が求められます。

そのため、府においては、上記の要件を満たす必要なノウハウ、人材を有機的、効果的に事業に結び付けていくため、公募型プロポーザル方式により、業務遂行が可能な組織・団体から実施手法等について幅広く提案を求め、事業者の選定を行います。

(2) 事業概要

別紙「持続可能な開発目標ビジネス創出支援事業仕様書」のとおりです。

(3) 委託上限額

2, 956千円 (税込)

2 スケジュール

令和2年2月18日(火)	公募開始
令和2年2月25日(火)	説明会開催
令和2年3月4日(水)	質問受付締切
令和2年3月18日(水)	提案書類提出締切
令和2年3月下旬	選定委員会
令和2年4月上旬	契約締結
令和2年4月上旬	事業開始
令和3年3月31日(水)	事業終了

3 公募参加資格

次に掲げる要件をすべて満たす者又は複数の者による共同企業体（以下「共同企業体」という。）であること。
なお、共同企業体で参加する者にあつては、構成員全員が該当すること。

(1) 次のアからクまでのいずれにも該当しない者であること。

ア 成年被後見人

イ 民法の一部を改正する法律（平成11年法律第149号）附則第3条第3項の規定によりなお従前の例によることとされる同法による改正前の民法（明治29年法律第89号）第11条に規定する準禁治産者

ウ 被保佐人であつて契約締結のために必要な同意を得ていないもの

エ 民法第17条第1項の規定による契約締結に関する同意権付与の審判を受けた被補助人であつて、契約締結のために必要な同意を得ていないもの

オ 営業の許可を受けていない未成年者であつて、契約締結のために必要な同意を得ていないもの

カ 破産手続開始の決定を受けて復権を得ない者

キ 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第32条第1項各号に掲げる者

ク 地方自治法施行令第167条の4第2項各号のいずれかに該当すると認められる者（同項各号のいずれかに該当すると認められることにより、大阪府入札参加停止要綱に基づく入札参加停止の措置を受け、その措置期間を経過した者を除く。）又はその者を代理人、支配人その他の使用人若しくは入札代理人として使用する者

(2) 民事再生法（平成11年法律第225号）第21条第1項又は第2項の規定による再生手続開始の申立てをしている者又は申立てをなされている者（同法第33条第1項の再生手続開始の決定を受け、かつ、大阪府入札参加資格審査要綱に基づく物品・委託役務関係競争入札参加資格の再認定がなされた者を除く。）、会社更生法（平成14年法律第154号）第17条第1項又は第2項の規定による更生手続開始の申立てをしている者又は申立てをなされている者（同法第41条第1項の更生手続開始の決定を

- 受け、かつ、同要綱に基づく物品・委託役務関係競争入札参加資格の再認定がなされた者を除く。）、金融機関から取引の停止を受けている者その他の経営状態が著しく不健全であると認められる者でないこと。
- (3) 府の区域内に事業所を有する者にあつては、府税に係る徴収金を完納していること。
 - (4) 府の区域内に事業所を有しない者にあつては、主たる事務所の所在地の都道府県における最近 1 事業年度の都道府県税に係る徴収金を完納していること。
 - (5) 消費税及び地方消費税を完納していること。
 - (6) 大阪府入札参加停止要綱に基づく入札参加停止措置を受けている者又は同要綱別表各号に掲げる措置要件に該当する者でないこと。
 - (7) 大阪府公共工事等に関する暴力団排除措置要綱に基づく入札参加除外措置を受けている者（(1)キに掲げる者を除く。）又は同要綱別表各号に掲げる措置要件に該当する者（(1)キに掲げる者を除く。）でないこと。
 - (8) 府を当事者の一方とする契約（府以外の者のする工事の完成若しくは作業その他の役務の給付又は物件の納入に対し府が対価の支払をすべきものに限る。以下同じ。）に関し、入札談合等（入札談合等関与行為の排除及び防止並びに職員による入札等の公正を害すべき行為の処罰に関する法律（平成14年法律第101号）第2条第4項に規定する入札談合等をいう。以下同じ。）を行ったことにより損害賠償の請求を受けている者でないこと。

4 応募の手続き

本事業の提案に参加を希望する者の受付手続等は、以下のとおりです。

「3 公募参加資格」を確認の上、必要な書類を受付期間内に提出してください。

(1) 公募要領の配布及び応募書類の受付

ア 配布期間

令和2年2月18日（火）から令和2年3月18日（水）まで
（土曜日、日曜日及び祝日を除く。午前9時から午後6時まで）

イ 配布場所及び受付場所

大阪府商工労働部 成長産業振興室 産業創造課 産業化戦略グループ

住 所：大阪市住之江区南港北1丁目14-16

大阪府咲洲庁舎（さきしまコスモタワー）25階

電話番号：06-6210-9485

ウ 配布方法

上記「イ 配布場所及び受付場所」で配布するほか、産業創造課ホームページ

（http://www.pref.osaka.lg.jp/energy/sdgs/sdgs_koubo.html）からダウンロードできます。

（郵送による配布は行いません。）

エ 受付期間

令和2年3月11日（水）から令和2年3月18日（水）まで
（土曜日及び日曜日を除く。午前9時から午後6時まで）

オ 提出方法

書類は必ず受付場所に持参してください。（郵送による提出は認めません。）

カ 費用の負担

応募に要する経費は、すべて応募者の負担とします。

(2) 応募書類

ア 応募申込書（様式1：正本（押印したもの）1部、副本（コピー可）7部）

イ 企画提案書（様式2：正本1部、副本（コピー可）7部）

※審査の際の匿名性を担保するため、記名・押印等が必要な表紙等を除く企画提案書本文の記載にあ

たつては、提案者名等、提案者を特定できる文言を使用しないでください。

ウ 応募金額提案書（様式3：正本1部、副本（コピー可）7部）

エ 事業実績申告書（様式4：正本（押印したもの）1部、副本（コピー可）7部）

オ 共同企業体で参加の場合

①共同企業体届出書（様式5：1部）

②共同企業体協定書（写し）（様式6：1部）

※なお、共同企業体を特定するため、共同企業体の名称は、本事業名をそのまま使用「（例）持続可能な開発目標ビジネス創出支援事業共同企業体」しないでください。

③委任状（様式7：1部）

④使用印鑑届（様式8：1部）

カ 誓約書（参加資格関係）（様式9：1部）

キ 事業実施体制の組織表（様式自由：7部、各構成員の役割分担等が明示されているもの）

【添付書類】

ク 定款又は寄付行為の写し（1部）（原本証明してください。）

ケ 法人登記簿謄本（1部）

①法人の場合に提出してください。

②発行日から3カ月以内のもの

コ 本籍地の市区町村が発行する身分証明書（1部）

①個人の場合に提出してください。

②発行日から3カ月以内のもの

③準禁治産者、破産者でないことが分かるもの

サ 法務局が発行する成年後見登記に係る登記されていないことの証明（1部）

①個人の場合に提出してください。

②発行日から3カ月以内のもの

③「成年被後見人、被保佐人、被補助人とする記録がない」ことの証明

シ 納税証明書（各1部）（未納がないことの証明：発行日から3カ月以内のもの）

①大阪府の府税事務所が発行する府税（全税目）の納税証明書

②大阪府内に事業所がない方は、本店を管轄する都道府県税事務所が発行するものに代えます。

③税務署が発行する消費税及び地方消費税の納税証明書

ス 財務諸表の写し（1部：最近1カ年のもの、半期決算の場合は2期分）

①貸借対照表

②損益計算書

③株主資本等変動計算書

セ 障害者雇用状況報告書の写し（1部）

①常用雇用労働者数が**45.5人以上**の事業主の場合

・「障害者の雇用の促進等に関する法律」により事業主（常時雇用労働者数が**45.5人以上**）に義務化されている「障害者雇用状況報告書（様式第6号）」の写し

・令和元年6月1日現在の状況について記載したもので本店所在地管轄の公共職業安定所に提出済で受付印のあるもの

（インターネットによる報告をした場合は、受付印は不要ですが、到達を確認できる書類を併せて提出して下さい。）

②常時雇用労働者総数が**45.5人未満**の事業主の場合

・「障がい者の雇用状況について」（様式第10号）1部

③公正採用人権啓発推進員選任（又は異動）報告書の写し（1部）

※以下任意項目

④企業人権協議会への加入申込書の写し（1部）

⑤一般社団法人おおさか人材雇用開発人権センター入会届の写し（1部）

⑥「大阪府障がい者サポートカンパニー」又は「大阪府障がい者サポートカンパニー優良企業」登録申請書の写し（1部）

※上記③～⑥については、その他選任や加入等が確認できる書類の写しでも可とします。

(3) 応募書類の返却

応募書類は理由の如何を問わず、返却しませんのでご了解ください。

なお、応募書類は本件に係る事業者選定の審査目的のみに使用し、他の目的には使用しません。

(4) 応募書類の不備

応募書類に不備があった場合には、審査の対象とならないことがあります。

(5) その他

ア 応募は1者1提案とします（共同企業体構成員として参加する場合を含む）。

イ 応募書類はモノクロ（白黒）としてください。

ウ 応募書類の提出に際しては、正本、コピーそれぞれ1セットずつA4ファイルに綴って提出してください。応募書類は電子媒体（CD-R等）での提出もお願いします。

エ 表紙及び背表紙には提案事業タイトルと提案団体名を記入してください。

<記入例>「持続可能な開発目標ビジネス創出支援事業」提案書
株式会社〇〇（法人名）

オ 書類提出後の差し替えは認めません（大阪府が補正等を求める場合を除く）。

カ 提出書類に虚偽の記載をした者は本件への参加資格を失うものとします。

5 説明会

(1) 開催日時

令和2年2月25日（火） 午後2時から午後3時まで

(2) 開催場所（地図参照）

大阪府咲洲庁舎（さきしまコスモタワー）41階 共用会議室⑨

（大阪市住之江区南港北一丁目14-16大阪府咲洲庁舎（さきしまコスモタワー）41階）

(3) 申込方法

電子メール（sangyosoza@gbox.pref.osaka.lg.jp）で参加事業者名、参加者職氏名、連絡先及び参加人数を明記の上、申込みください。

※件名に「【説明会申込：持続可能な開発目標ビジネス創出支援事業】」と明記してください。

※口頭、電話による申し込みは受け付けません。

※会場の都合により、応募者1者につき2名まででお願いします。

(4) 説明会への申込期限

令和2年2月21日（金） 正午まで



6 質問の受付

(1) 受付期間

公募開始日から令和2年3月4日（水）午後6時まで

(2) 提出方法

電子メール（sangyosozo@gbox.pref.osaka.lg.jp）で受け付けます。

ア 電子メール送信後、必ず電話で着信の確認をお願いします。

（土曜日、日曜日及び祝日を除く。午前9時から午後6時まで）

イ 質問への回答は産業創造課ホームページ

（http://www.pref.osaka.lg.jp/energy/sdgs/sdgs_koubo.html）に掲示し、個別には回答しません。

7 審査の方法

(1) 審査方法

ア (2)の審査基準に基づき、外部委員で構成する選定委員会による審査を行い、最優秀提案者（及び次点者）を決定します。ただし、最高点の者が複数いる場合は、提案金額の安価な者を最優秀提案事業者とします。

イ 審査は、書類審査及びプレゼンテーション審査にて行います。プレゼンテーション審査の日時は、事前に通知を行います。

プレゼンテーション審査にはパワーポイント等の機材は使用できませんのでご了承ください。

ウ 最優秀提案者の評価点が、審査の結果、100点満点中60点以下の場合は採択しません。

なお、審査内容に係る質問や異議は一切受け付けません。

エ 最優秀提案者は特別の理由がない限り、契約交渉の相手方に決定します。

(2) 審査基準

審査項目	審査内容	配点
事業目的及び事業内容の理解度	○本事業の目的、SDGsビジネスの現状認識を踏まえた提案である。	5点

<p>「SDGsビジネスマッチングイベント開催等業務」の企画提案 (別添仕様書2(1)参照)</p>	<p>①ビジネスマッチングイベントの開催時期及び開催を想定している会場名を記載した「年間事業実施計画」の提案が妥当なものである。 ②ビジネスマッチングイベントの実施方法について、出場者募集から開催までの流れの提案が妥当なものである。 ③サポーターの 카테고리設定(4~5程度)の提案が妥当なものである。 ④サポーターの 카테고리設定の理由、効果の提案が妥当なものである。 ⑤カテゴリーに応じたサポーターの招聘方法や、当該サポーターがビジネスマッチングイベントにおいて提供するリソース等の提案は、実現可能で妥当なものである。 ⑥過去3年間のセミナー等のイベントにおいて、有力な講師や企業等を招聘した実績が豊富にある。 ⑦ビジネスマッチングイベントに出場する企業等の効果的な募集方法の提案が実現可能で妥当なものである。 ⑧ビジネスマッチングイベント当日においてできるだけ多くのマッチングを成立させるための具体的な取組みの提案が妥当なものである。 ⑨その他、ビジネスマッチングイベントを効率的・効果的に実施するための工夫やノウハウの提案が妥当なものである。 ⑩ビジネスマッチングサポートの具体的な取組内容及び実施場所の考え方の提案が妥当なものである。 ⑪ビジネスマッチングイベントで招聘したサポーターの継続的な活用方策の提案が妥当なものである。</p>	<p>35点</p>
<p>「SDGsビジネス事例マップ」作成・PR業務」企画提案 (別添仕様書2(2)参照)</p>	<p>①本事業でマッチングが成立したSDGsビジネスの実例のマッピング(整理)方法の提案が妥当なものである。 ②「SDGsビジネス事例マップ」の仕組みは、府内企業のSDGsビジネスへの挑戦を喚起するとともに、新たなサポーターを呼び込むことが実現可能で妥当なものである。 ③「SDGsビジネス事例マップ」の効果的なPR方法として、ホームページの構成やデザインの提案が妥当なものである。 ④ホームページに掲載された最新のSDGsビジネスの情報を企業等が随時取りにいけるよう誘導する仕掛けの提案が妥当なものである。</p>	<p>25点</p>
<p>「事業実施に関する基本的事項等」企画提案 (別添仕様書3(1)、(2)参照)</p>	<p>①事業実施体制の位置づけ、責任の所在が明確である。 ②本事業を受託するにあたっての提案事業者の強み(サポーター発掘のネットワーク、SDGsビジネスのコンサルティング、SDGsビジネスマッチングに関する類似の運営実績、専門知識や経験、能力等に精通したスタッフの有無など)がある。 ③その他、本事業を効率的・効果的に実施するためのオリジナリティがある。</p>	<p>10点</p>
<p>府施策との整合</p>	<p>○府の労働施策(公正採用選考人権啓発推進員の設置、大阪企業人権協議会・おおさか人材雇用開発人権センターへの加入・加入状況)への対応状況、障がい者雇用状況を確認する。 ※公正採用選考人権啓発推進員制度について http://www.pref.osaka.lg.jp/rosei/koseisaiyo/400-suisinin.html#1</p>	<p>5点</p>
<p>価格点</p>	<p>○満点(20点)×提案価格のうち最低価格/自社の提案価格</p>	<p>20点</p>
<p>合 計</p>		<p>100点</p>

(3) 審査結果

ア 契約交渉の相手方が決定した後、審査結果は採択に関わらず、応募いただいた全応募者に通知します。

イ 選定過程の透明性を確保する観点から、以下の項目を産業創造課ホームページ

(http://www.pref.osaka.lg.jp/energy/sdgs/sdgs_koubo.html) において公表します。応募者

が2者であった場合の次点者の得点は公表しません。

①最優秀提案事業者及び契約交渉の相手方と評価点

* 品質点及び価格点を配点した場合の価格点・提案金額

②全提案事業者の名称 * 申込順

③全提案事業者の評価点 * 得点順 内容は①に同じ

④最優秀提案事業者の選定理由 * 講評ポイント

⑤選定委員会委員の氏名及び選任理由

⑥その他（最優秀提案事業者と契約交渉の相手方が異なる場合は、その理由等）

(4) 審査対象からの除外（失格事由）

次のいずれかに該当した場合は、提案審査の対象から除外するとともに、別途、入札に準じて入札参加停止等の措置を講ずることとします。

ア 選定委員に対して、直接、間接を問わず、故意に接触を求めること。

イ 他の応募提案者と応募提案の内容又はその意思について相談を行うこと。

ウ 事業者選定終了までの間に、他の応募提案者に対して応募提案の内容を意図的に開示すること。

エ 応募提案書類に虚偽の記載を行うこと。

オ その他選定結果に影響を及ぼすおそれのある不正行為を行うこと。

8 契約手続きについて

(1) 契約交渉の相手方に選定された者と大阪府との間で協議を行い、契約を締結します。

(2) 採択された提案については、採択後に大阪府と詳細を協議していただきます。この際、内容・金額について変更が生じる場合があります。

(3) 契約金額の支払いについては、精算払いとします。

(4) 契約交渉の相手方が、契約交渉の相手方として決定した日から契約締結の日までの間において、大阪府公共工事等に関する暴力団排除措置要綱に基づく入札参加除外措置を受けているとき、又は同要綱別表各号に掲げる措置要件に該当するときは、契約を締結しません。

(5) 契約交渉の相手方が、契約交渉の相手方として決定した日から契約締結の日までの間において、次の

ア又はイのいずれかに該当したときは、契約を締結しないことがあります。

ア 大阪府入札参加停止要綱に基づく入札参加停止の措置を受けている者又は同要綱別表各号に掲げる措置要件に該当する者

イ 府を当事者の一方とする契約に関し、入札談合等を行ったことにより損害賠償の請求を受けた者

(6) 契約相手方は、この契約の締結と同時に、契約金額の100分の5以上の額の契約保証金を納付しなければなりません。

ただし、契約保証金の納付は、次に掲げる担保の提供をもって代えることができます。

ア 国債又は地方債。この場合において、提供される担保の価値は額面金額又は登録金額による。

イ 政府の保証のある債券又は銀行、株式会社商工組合中央金庫、農林中央金庫若しくは全国を地区とする信用金庫連合会の発行する債券。この場合において、提供される担保の価値は額面金額又は登録金額（発行価格が額面金額又は登録金額と異なるときは、発行価格）の8割に相当する金額による。

ウ 銀行又は大阪府が確実と認める金融機関（出資の受入れ、預り金及び金利等の取締りに関する法律（昭和29年法律第195号）第3条に規定する金融機関（銀行を除く。）をいう。以下この項において同じ。）が振り出し、又は支払保証をした小切手。この場合において、提供される担保の価値は小切手金額に

よる。

エ 銀行又は大阪府が確実と認める金融機関が引き受け、又は保証若しくは裏書をした手形。

この場合において、提供される担保の価値は手形金額による。

オ 銀行又は大阪府が確実と認める金融機関に対する定期預金債権。

この場合において、提供される担保の価値は当該債権の証書に記載された債権金額による。

カ 銀行又は大阪府が確実と認める金融機関の保証。この場合において、提供される担保の価値は保証書に記載された保証金額による。

(7) (6)の規定にかかわらず、次のいずれかに該当するときは、契約保証金の全部又は一部を免除します。

ア この契約による債務の不履行により生ずる損害をてん補する履行保証保険契約（保険金額は、契約金額の 100 分の 5 以上）を締結したとき。この場合においては、契約相手方は履行保証保険契約の締結後、直ちにその保険証券を大阪府に寄託しなければならない。

イ 大阪府財務規則（昭和 55 年大阪府規則第 48 号）第 68 条第 3 号に該当する場合における契約相手方からの契約保証金免除申請書の提出（国、地方公共団体、独立行政法人通則法第二条第一項に規定する独立行政法人、国立大学法人法第二条第一項に規定する国立大学法人、地方独立行政法人法第二条第一項に規定する地方独立行政法人又は沖縄振興開発金融公庫と同種類及び同規模（当該契約金額の 7 割以上）の契約履行実績が過去 2 年間で 2 件以上ある場合で、かつ、不履行がないと認めるとき）。

ウ 大阪府財務規則第 68 条第 6 号に該当する場合。

9 その他

- (1) 応募提案にあたっては、大阪府公募型プロポーザル方式実施基準、公募型プロポーザル方式応募提案・見積心得、公募要領、仕様書等を熟読し遵守して下さい。
- (2) 受注者は、自然災害などの緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、事業の継続や早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法や手段等を取り決めておく「事業継続計画」を策定するよう努めて下さい。
- (3) なお、この契約の締結時において、中小企業等経営強化法（平成 11 年法律第 18 号）第 50 条第 1 項に規定する「事業継続力強化計画」又は同法第 52 条第 1 項に規定する「連携事業継続力強化計画」の認定（以下「認定」という。）を受けている受注者（共同企業体を結成している場合は、各々の構成員）は、事業継続力強化計画認定書又は連携事業継続力強化計画認定書（以下「認定書」という。）の写しを速やかに大阪府に提出するよう努めて下さい。認定を受けていない受注者（共同企業体を結成している場合は、各々の構成員）は、認定を受けることができる場合に、契約期間の終了までに認定を受けるよう努めるとともに、認定を受けた際は、認定書の写しを速やかに大阪府に提出するよう努めて下さい。

(別記)

特記仕様書

I 妨害又は不当要求に対する届出及び報告義務

- 第1 受注者は、契約の履行に当たって、大阪府公共工事等不当介入対応要領の定めるところにより、暴力団員及び暴力団密接関係者等から社会通念上不当な要求又は契約の適正な履行を妨げる行為（以下「不当介入」という。）を受けた場合は、断固としてこれを拒否するとともに、大阪府への報告及び管轄警察署への届出（以下「報告・届出」という。）を行わなければならない。
- 第2 報告・届出は、不当介入等報告・届出書により、速やかに、大阪府に報告するとともに、管轄警察署の行政対象暴力対策担当者に届出するものとする。ただし、急を要し、当該不当介入等報告・届出書を提出できないときは、口頭により報告することができる。この場合は、後日、不当介入等報告・届出書を各々提出するものとする。
- 第3 受注者は、下請負人等が暴力団員及び暴力団密接関係者等から不当介入を受けた場合は、速やかに報告・届出を行うよう当該下請負人等に指導しなければならない。
- 第4 報告・届出を怠った場合は、大阪府暴力団排除条例（平成 22 年大阪府条例第 58 号）に基づく公表又は入札参加停止を措置することがある。

II 個人情報取扱特記事項

(基本的事項)

- 第1 受注者は、個人情報の保護の重要性を認識し、この契約による事務の実施に当たっては、個人の権利利益を侵害することのないよう、個人情報の取扱いを適正に行わなければならない。

(責任体制の整備)

- 第2 受注者は、個人情報の安全管理について、内部における責任体制を構築し、その体制を維持しなければならない。

(作業責任者等の届出)

- 第3 受注者は、個人情報の取扱いに係る作業責任者を定め、書面により発注者に報告しなければならない。
- 2 受注者は、作業責任者を変更した場合は、速やかに書面により発注者に報告しなければならない。
- 3 作業責任者は、特記仕様書に定める事項を適切に実施するよう作業従事者を監督しなければならない。

(秘密の保持)

- 第4 受注者は、この契約による事務に関して知り得た情報をみだりに他人に知らせてはならない。この契約が終了し、又は解除された後においても、同様とする。

(教育の実施)

- 第5 受注者は、個人情報の保護、情報セキュリティに対する意識の向上、特記仕様書における作業従事者が遵守すべき事項その他本委託業務の適切な履行に必要な教育及び研修を、作業従事者全員に対して実施しなければならない。

(再委託)

- 第6 受注者は、発注者の承諾がある場合を除き、この契約による事務の全部又は一部を第三者に委託してはならない。

2 発注者は、前項の承諾をするに当たっては、少なくとも、別に定める条件を付するものとする。

(派遣労働者等の利用時の措置)

第7 受注者は、本委託業務を派遣労働者、契約社員その他の正社員以外の労働者に行わせる場合は、正社員以外の労働者に本契約に基づく一切の義務を遵守させなければならない。

2 受注者は、発注者に対して、正社員以外の労働者の全ての行為及びその結果について責任を負うものとする。

(個人情報の適正管理)

第8 受注者は、この契約による事務に関して知り得た個人情報の漏えい、滅失又は損傷の防止その他の個人情報の適切な管理のために必要な措置を講じなければならない。なお、講じるべき措置における留意すべき点は次のとおり。

- (1) 個人情報の利用者、作業場所及び保管場所の限定及びその状況の台帳等への記録
- (2) 施錠が可能な保管庫又は施錠若しくは入退室管理の可能な保管室での個人情報の保管
- (3) 個人情報を取扱う場所の特定及び当該場所における名札（氏名、会社名、所属名、役職等を記したものの）の着用
- (4) 定められた場所からの個人情報の持ち出しの禁止
- (5) 個人情報を電子データで持ち出す場合の、電子データの暗号化処理等の保護措置
- (6) 個人情報を移送する場合の、移送時の体制の明確化
- (7) 個人情報を電子データで保管する場合の、当該データが記録された媒体及びそのバックアップの保管状況にかかる確認及び点検
- (8) 私用パソコン、私用外部記録媒体その他の私用物を持ち込んでの個人情報を扱う作業の禁止
- (9) 個人情報を利用する作業を行うパソコンへの業務に関係のないアプリケーションのインストールの禁止
- (10) その他、委託の内容に応じて、個人情報保護のための必要な措置
- (11) 上記項目の従事者への周知

(収集の制限)

第9 受注者は、この契約による事務を行うために個人情報を収集するときは、事務の目的を達成するために必要な範囲で、適法かつ公正な手段により行わなければならない。

(目的外利用・提供の禁止)

第10 受注者は、発注者の指示がある場合を除き、この契約による事務に関して知り得た個人情報を契約の目的以外の目的のために利用し、又は発注者の承諾なしに第三者に提供してはならない。

(複写、複製の禁止)

第11 受注者は、発注者の承諾がある場合を除き、この契約による事務を行うために発注者から引き渡された個人情報が記録された資料等を複写し、又は複製してはならない。

(資料等の返還等)

第12 受注者は、この契約による事務を処理するために、発注者から提供を受け、又は受注者自らが収集し、若しくは作成した「個人情報が記録された資料等」を、この契約完了後直ちに発注者に返還し、又は引き渡すものとする。ただし、発注者が別に指示したときは当該方法によるものとする。

(廃棄)

第13 受注者は、この契約に事務に関して知り得た個人情報について、保有する必要がなくなったときは、確実かつ速やかに廃棄し、又は消去しなければならない。

(調査)

第14 発注者は、受注者が契約による事務の執行に当たり取り扱っている個人情報の状況について、随時調査す

ることができる。

(事故発生時における報告)

第 15 受注者は、この契約に違反する事態が生じ、又は生じるおそれのあることを知ったときは、速やかに発注者に報告し、発注者の指示に従うものとする。

(契約の解除)

第 16 発注者は、受注者が本特記事項に定める義務を果たさない場合は、この契約による業務の全部又は一部を解除することができるものとする。

(損害賠償)

第 17 受注者は、本特記事項に定める義務に違反し、又は怠ったことにより発注者が損害を被った場合には、発注者にその損害を賠償しなければならない。

(第 6 の 2 関係) 発注者が再委託を承諾する場合に付する条件例

- | |
|---|
| <p>(1) 受注者は、業務の一部を再委託する場合は、再委託先の名称、再委託する理由、再委託して処理する内容、再委託先において取り扱う情報、再委託先における安全性及び信頼性を確保する対策並びに再委託先に対する管理及び監督の方法を明確にしなければならない。</p> <p>(2) (1)の場合、受注者は、再委託先に本契約に基づく一切の義務を順守させるとともに、発注者に対して、再委託先の全ての行為及びその結果について責任を負うものとする。</p> <p>(3) 受注者は、再委託先に対して本委託業務の一部を委託した場合は、その履行状況を管理・監督するとともに、発注者の求めに応じて、管理・監督の状況を報告しなければならない。</p> |
|---|

(第 8 (1)関係) 個人情報管理台帳 (例)

項目	内容
受託業務名	
受領年月日	
大阪府庁担当部局・担当者名	
個人情報が記録されている媒体・数量	(例) 紙 ○○枚、CD ○○枚
主たる個人情報の種別	(例) 申請者の氏名・住所・電話番号
個人情報の保管場所	(例) ○○室内鍵つきロッカー
管理責任者名	
作業従事者名	
作業場所	
作業場所からの持出しの有無	(「有」の場合、持出管理簿等を別途作成)
複写の有無	(「有」の場合、複写管理簿等を別途作成)
廃棄・返却年月日	
備考	

(注) 受託事務の内容により、適宜項目の追加・削除をお願いします。

Ⅲ 委託役務業務に係る出向社員等の取扱特記事項

入札等により大阪府が発注する委託役務業務を受注した者が、当該業務を履行するに当たり、他者から出向社員等を受け入れる場合の取扱いについては、以下のとおりとする。

(取扱方針)

以下の2点については、原則禁止とする。

- (1) 基幹社員（業務責任者等）への出向社員等の受け入れ
- (2) 入札公告日から契約締結日まで、又は出向受入時において入札参加停止措置中の者からの出向社員等の受け入れ

ただし、上記(2)に関して、受注業者から、業務の安全かつ確実な引継ぎ、熟練労働者の確保、雇用の安定等のために最低限必要な出向社員等の受け入れについて、大阪府に事前に承認願いがあれば、承認基準の全てに該当する場合は承認する。

【承認基準】

- ① 出向社員等の受入期間は最長1年間とする。
- ② 受け入れる人員数は業務従事者全体の50パーセント未満とする。
- ③ 労働者派遣事業法、職業安定法等の労働法規に違反していないこと。
(労働者の供給事業などの違法な行為を行っていないこと。)
- ④ 受注業者及び出向元（派遣元）企業が親会社・子会社の関係にないこと。
- ⑤ 出向元（派遣元）企業が大阪府公共工事等に関する暴力団排除措置要綱に基づく入札参加除外措置を受けている者又は同要綱別表に掲げる措置要件に該当する者でないこと。

(用語の定義)

- (1)「受注業者」とは、競争入札等により当該業務を受注した者をいう。
- (2)「入札参加停止措置中の者」とは、次のア又はイに該当する者をいう。
 - ア 大阪府入札参加停止要綱に基づく入札参加停止の措置を受けている者又は同要綱別表に掲げる措置要件に該当する者
 - イ 大阪府公共工事等に関する暴力団排除措置要綱に基づく入札参加除外措置を受けている者又は同要綱別表に掲げる措置要件に該当する者
- (3)「出向社員等」とは、出向元と出向先との間で締結された出向契約により、出向先企業の業務に従事する社員、又は派遣される社員のことをいう。ただし、当該業務に係る入札公告日又は見積書依頼日の1年以上前かつ入札参加停止措置に該当する日以前から受注業者と出向又は派遣関係が確認できる場合はこの限りでない。
- (4)「子会社」とは会社法（平成17年法律第86号）（以下「法」という。）第2条第3号に定めるものをいう。また、「親会社」とは法第2条第4号に定めるものをいう。